

『正しい動機で、確信を持って』 ～ 賢くなる ～

2023 年 6 月 18 日、2008 年から始めている『東久留米がん哲学外来 in メディカルカフェ』（CAJ に於いて）に赴いた（画像）。初めて参加された方もおられ、また個人面談の機会も与えられた。まさに『正しい動機で、確信を持って』の確認の大変貴重の時であった。

その後、2007 年から始めた読書会を行なった（東久留米駅東口の『イースト サイド カフェ & ダイニング』に於いて）。今回は、『武士道』[新渡戸稲造(1862-1933)著 矢内原忠雄(1893-1961)訳、岩波書店]の第 15 章『武士道の感化』であった。質問もあり、大変充実した交わりの読書会であった。まさに、15 章に記述されている『仲間の中に ただ一人の賢者があればよい、しからば すべてが賢くなる。それほど伝染は速かである』の復習であった。

筆者は、英文で書かれた『代表的日本人』[内村鑑三(1861~1930)著 鈴木範久訳、岩波文庫]と『武士道』（新渡戸稲造著 矢内原忠雄訳、岩波書店）を交互に 毎月、参加者と音読しながら進めている。

終了後、初めて参加された方と wife も含めて 5 人と東久留米ジョナサンで夕食の時をもった。年内に渋谷で、市民公開シンポジウム『居場所 ～ First Contact Team ～』（案）が企画されることが決定された。大いに感激した。時代的要請のテーマであろう。

夜は、『21 世紀のエステル会』の Zoom 会議であった。9 月 18 日 13:30—15:30『2023 年度 第 6 回 21 世紀のエステル会シンポジウム』（会場：白鷺教会に於いて）が決定された。

テーマ：教会でがん哲学外来カフェを始めた、その後

教会で始めたカフェのその後（現在の状況）を伺い、参加された方同士も互いに現状を語り合う時間を設けて、これからのカフェづくりのヒントになるものを得られるようにしていく。

タイトル：教会でもがん哲学外来カフェを始めてみたら・・・ ～ 地域に根差す働きとして～

がん哲学外来へようこそ

The Cancer Philosophy Cafe will meet 1-3 pm Today (6/18)
in the CAJ Multi purpose room, followed by the Book
discussion group at 3-5pm at the East Side Cafe.

本日6月18日、がん哲学カフェが 1-3 pm CAJ Multi Purpose
Roomであります。

その後、読書会がEast Side カフェにて3-5pmにあります。



YORISOU

Please contact Okio or Jean Hino for further information!
詳細は樋野先生かJeanさんにお尋ね下さい！

武士道読書会のお知らせ

新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫、矢内原忠雄訳)と内村鑑三『代表的日本人』
(岩波文庫、鈴木範久訳)を交互に読み進めております。

リーダーは順天堂大学名誉教授・一般社団法人がん哲学外来理事長で
新渡戸稲造記念センター長の樋野興夫先生です。

樋野先生のユニークでわかりやすい解説とさり気なく語られるメッセージに
励まされ、人生の生きる意味をあらためて考えるひとときになります。
どなたでもご参加いただけます。みなさまの参加をお待ちしております。

～2022年4月から2022年12月までの日程～

毎月・日曜日 15:30～17:00

4月24日 5月22日 6月26日

7月31日 8月21日 9月25日

10月23日 11月27日 12月18日

場 所: 東久留米市 市民プラザ (スペース105)

西武池袋線・東久留米駅西口より 徒歩8分

(東久留米市新川町 1-3-6)



会場: 市民プラザの道路を挟んだ
向かいの建物1階です。

参加費: 100円

※場所は変更がありますので三国まで連絡ください(080-5643-7265)

武士道

新渡戸稲造著

矢内原忠雄訳



「武士道はその表
徴たる桜花と同
じく、日本の土
地に固有の花で
ある」——こう
説きおこした新

渡戸(1862-1933)は以下、武士道の淵源・
特質、民衆への感化を考察し、武士道がい
かにして日本の精神的土壤に開花結実した
かを説き明かす。「太平洋の懸橋」たらんと
志した人にふさわしく、その論議は常に世
界的コンテクストの中で展開される。



青 118-1

岩波文庫

東久留米がん哲学外来

in

メディカルカフェ

がんの悩みを心おきなく話したい…

優しく、あたたかく、居心地のよいカフェに、どうぞお越しください。
お茶とお菓子を用意してお待ちしています。

日程(要予約) 2022年

4月24日、5月22日、6月26日、7月31日、8月21日、

9月25日、10月23日、11月27日、12月18日

2023年

1月29日、2月26日、3月26日

時間: 13時~15時

*変更場合があります、ホームページにてご確認、ご予約ください。

予約・お問い合わせ: 東久留米がん哲学外来 in メディカルカフェ

アドレス higashikurume.gg@gmail.com

<https://www.higashikurume-gantetsu.com>

【主催】東久留米がん哲学外来 【後援】一般社団法人がん哲学外来

特集 この夏の一書

揺らぐ日本を思い、骨太に読み切る

代表的日本人

内村鑑三 著
(岩波文庫)



推薦者: 樋野興夫氏
順天堂大学医学部病理・腫瘍学講座教授
NPO法人がん哲学外来理事長
[21世紀の知的協力委員会] 議長

がん細胞から人の生き方を学ぶ。そしてがん患者をはじめとした人間との対話。それが樋野興夫氏の実践するがん哲学外来だ。全国各地で講演会やメディカルカフェを開き、闘病する患者や家族、医療関係者などがやってくる。

樋野氏は、がん細胞を観察・研究してきた病理医だが、それともにおそらく国内でも屈指の内村鑑三、新渡戸稲造らの研究者であり、実践家である。何しろ患者との対話で次から次へと紡ぎ出される言葉の数々は、それら内村鑑三、新渡戸稲造らの著作にある一文、一文を血肉としてきたものなのだ。「若いころから恩師に、毎日寝る30分前には医療と関係のない書物を読みなさいと言われ、実践してきた。もう40年になる」

樋野氏が持参した内村鑑三著の『代表的日本人』を見てみると、行間は樋野氏がかいたボールペンの文字で埋め尽くされている。読書しながら思索を重ねてきた証だ。色が通っているのは、読み込んだ回数を表している(写真参照)。

『代表的日本人』は、果てしなく西欧化の道を突き進む明治期にあって、西欧の真似をする日本とは何なのか。それを受け入れてい

る自分とは何者なのか。そう自問自答した内村鑑三が、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮上人という5人の偉人の生涯を紹介しながら、日本的な道徳や倫理の美しさを切々と説く。初版は英文で発表され、各国で翻訳された。

「東日本大震災や原発事故を経て、日本という国自体が揺らいでいる。そんなときだからこそ、ぜひ読んでほしい1冊だ」

内村鑑三だけではない。1933年3月、三陸で地震の大災害があった。被災地である宮古市などの沿岸部を訪れた新渡戸稲造は、惨状を目の当たりにし、「協力こそが力なり」と語ったとされる。

「まさに今に生きる言葉である。今、新渡戸稲造が生きていれば同じ行動、同じ発言をしたであろう」と樋野氏は言い切った。

時は違えども、現在の状況は、内村鑑三、新渡戸稲造が生きた明治中期に似ているようだ。そのと



きに、日本を憂い、生き抜いた思想家たちの片りんに触れ、自らの生き方を見つめ直す。そんな骨太な夏であってもいいかもしれない。